

年頭のご挨拶

神奈川県歯科医師国民健康保険組合理事長

小澤 孜

新年おめでとうございます。平成三十年の年頭にあたり、被保険者の皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

本組合は昭和三十三年に設立され、今年が満六十年という節目の年となります。給付割合も設立当初の十割給付から国の制度に沿って七割給付となり、我が国の人口の高齢化の進展と共に、国民健康保険料も医療分に加えて介護保険法、高齢者医療確保法に基づく保険料をお支払いいただくに至っております。

市町村国保においては、平成三十年から都道府県が財政責任の主体として事業運営の中心的な役割を担うという画期的な制度改革が始められます。これまでの市町村国保よりも、より大きな財政基盤によって国保制度を安定的に運用するものであります。

本組合としましては、被



保険者数は減少の一途を辿りつつも、また、国庫補助率が減少する中であっても、保険料の値上げを極力控えるつつ、自助努力に努め他の制度よりもより良い給付内容を目指してまいります。今後、適切な保健事業を推進するために、特定健診及びレセプト等のデータを活用した第二期データヘルス計画を策定中でありまして計画の精度を上げていくためにも、また、ご自身のためにも何らかの健診を受診していただきたく存じます。これからも被保険者の皆様が安心してお過ごしただけですよう、安定した組合運営に努めてまいりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

新年のご挨拶

神奈川県歯科医師信用組合理事長

後藤 哲哉

新年明けましておめでとうございます。組合員並びに会員の皆様には平素より当組合に対してご支援、ご協力を賜り役員一同厚く御礼申し上げます。当組合は本年4月に第69期事業年度がスタートし、平成31年度には創立70年を迎えることとなりました。これは偏に先生方にご愛顧いただいた賜物であり、重ねて御礼を申し上げます。今後も「歯科医師」の名を掲げる国内唯一の金融機関として、皆様のご期待に沿えるよう努力してまいります。

さて、経済環境に目を向けますと、日本銀行のマイナス金利政策や、長期金利のゼロ%誘導目標の設定などにより金融機関における資金運用収益の低下が顕著に表れております。このような状況から、当組合も金融機関の本業である貸出金の増加を目指して、利益の確保に努めているところであります。厳しい環境が長期間に

及んでいますが、当組合に



おいては4年連続で貸出金残高の増加を見ており、収益にも一定の成果が表れております。一方、歯科業界においては、将来に向かって歯科医師の需給問題や、歯科保健医療ビジョンについて議論されており、外来中心の医療提供体制から在宅医療や地域包括ケアへの変化も予想されています。このような環境の変化を見極めつつ、組合員の皆様のご要望に応えて、頼れる金融機関となるべく努力してまいりますので、今後とも関係各位のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。最後に、皆さまのご多幸、ご健勝を祈念させていただきます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年を迎えて

株式会社神歯信栄サービス 代表取締役社長

西野 一紘

明けましておめでとうございます。新春を迎え皆様には健やかに過ごしていただくこと心よりお慶び申し上げます。

神奈川県歯科医師会の関係団体として設立された弊社は常に本会の福祉共済制度を側面から支え皆様の付託に応えるべく努力してまいりましたが、今年が創立四十周年の節目の年を迎えることになりました。設立以来保険代理店として各種損害保険、生命保険を主たる業務として会員の歯科医療経営及びご家族のライフプランを支えるサービスを提供すると共に、弊社は常に前進を心がけてまいりました。

3年前からは本会と共催事業として県下各歯科医師会で開催してまいりました「歯科医業経営セミナー」も豊富なテーマと講師を揃えることにより好評を頂き、今年度も引き続き開催させて頂く予定です。また、関係団体としての役割の重

さを再認識し、会員の皆様



さを再認識し、会員の皆様の幅広いご要望に対応すべく業務範囲の拡大を目指し、昨年の株主総会において定款の改訂を行いました。今後ますます身近な存在としての信栄サービスをアピールしていく所存であります。世界に先がけて超高齢化、人口減少の時代に入る我が国は、これから先どのような社会を目指すのか世界から注目されています。経済大国としての日本もいづれ高齢者が安心して暮らせる緩やかで持続可能な福祉国家へと変わっていくのではないのでしょうか。その時には歯科医師の重要性はまた一段と増しているような気がいたします。皆様ますますのご健勝をお祈りいたします。